

【祝 叙勲】

「瑞宝雙光章 叙勲の栄に浴して」

九州支部(大分大洛会) 藤原 伸行(39 回生)

平成 19 年春の叙勲におきまして、(社)大分県放射線技師会の推薦によって、はからずも瑞宝雙光章受章という栄誉に浴しました。これもひとえに先生方をはじめ先輩や後輩の皆様にご支援をいただいた賜と深く感謝いたします。

去る 5 月 8 日、大分県庁で行なわれました勲記・勲章の伝達式にのぞみ、5 月 11 日に皇居に参内し、豊明殿において天皇陛下に拝謁を賜り、お言葉をいただき、家内共々この上ない感激でございました。皇居に参内した日は、1 日中突風の吹く日でしたが、宮殿は車寄せの木々のざわめきを全く感じさせない静寂さが漂い、けして派手さのない、伝統ある美しさを極めた端正な日本建築で、日本人の心とも言える「わび」・「さび」さえ感じる厳肅な佇まいでございました。

振り返りますと、昭和 37 年から 2 年間、春栄町の学舎(まなびや)で教えを受けた X 線学、放射線学の修得こそが、後の基礎となったことは申すまでもございません。また学生時代に経験した寮生活が、勤務先の間人関係の構築やコミュニケ - ション作りに大変役立った事も確かでございます。私は昭和 39 年から、大分赤十字病院に 42 年間勤務し昨年定年退職しましたが、その間、私で何かの役に立てればと思いつけた技師会活動、気がつけば 20 年の長きに関わりをもち、その間に幾多の人との出会いを経験しました。今では出会った方々から学んだ知識が、私の大きな財産となっています。

その技師会活動の中で忘れがたい思い出があります。平成 7 年に専修学校設立問題が日放技で取り上げられ、全国会長会議や定期総会で設立反対が採択される中、大分県会長の不祥事が発覚し、その後のやむ終えない県技師会の事情によって、平成 8 年度から会長を務めることになりましたが、大分県では日本文理大学が専修学校設立に名乗りを上げていたために、当時の日放技中村会長は、ことあるごとに大分と鹿児島を名出して非難していました。多くの各県会長からいたわりの言葉をいただきましたが、何かと落ち込みがちな私を勇気づけていただいたのが、当時、日放技副会長であった熊谷先生(41 回生)であり、宮崎県会長から日放技監事に就任した橋元先生(36 回生)であり、北海道会長の白井先生(34 回生)、そして静岡県会長の吉村先生(36 回生)でした。このときほど同窓の有難さを感じたことはありません。私を支えてくださった先輩の先生方によって私は立ち直り、会長の任期を無事努めることができました。改めて学友会の絆を深く感じ、感謝申し上げる次第でございます。

母校はレ専校から発展を重ね、卒業生が熱望してやまなかった 4 年制大学への移行が今年実現しました。これからもさらに飛躍して行く母校でありますことを祈念いたします。

以上

* 通巻 185 号 2007 年 10 月 1 日発行(H19-No.3)より